

2014

# 新春市民文芸

新春にあたり、俳句・短歌・川柳を募集したところ、俳句の部では49人の方から141句、短歌の部では33人の方から91首、川柳の部では31人の方から89句の応募がありました。また、俳句の部では小・中学生の皆さんからも応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句の部は加古宗也氏、短歌の部は斎藤すみ子氏、川柳の部は曾田規世児氏に審査していただいた結果、次の皆さんが入選されました。おめでとうございます。

## 俳句

◆特選◆

足腰の健やかにして初点前

熊味町 浅井シヅ子

初荷とく男子真白き軍手して

上羽角町 金子あきゑ

書初や力を入れて墨をする

伊藤一丁目 近藤 守男

お茶を煎る香りめでたき大福茶

米津町 沢戸美代子

身に余る事は望まず去年今年

江原町 鈴木よしゑ

松過ぎの笹に干しある祝箸

熊味町 立松 朋子

雑煮祝う土の匂ひの色野菜

下羽角町 濱嶋 君江

初笑い皺は生き来し燈とす

下羽角町 服部 芳子

身の塵を流す笥や初手水

米津町 米津喜三子

塩を盛る女将大きな松飾

熱池町 長村 道子

竹林の風新しき年迎ふ

熊味町 蓮沼 健

大旦那神鶏とさか高く揚げ

江原町 村松 昌子

子等の中爺も加はり独楽競ふ

住崎三丁目 青山 興子

波の上に波立ち上る初明り

熊味町 高須 正

去年今年何も変わらぬわが生活

永吉町 石川 英一

家族皆生き生きとして初雀

貝吹町 磯貝きみ子

玄関に靴が一杯年賀客

戸ヶ崎二丁目 浅井 敦子

半襟の重ねし色の淑気かな

上羽角町 乙部 妙子

## 俳句(小・中学生)

こまわしそんなにまわってだいじょうぶ 鶴城小一年 下谷 真由

こまわしみんなでたいけつまけないぞ 鶴城小一年 湯佐 日香

うつくんとたこあげしたよしばふでね 矢田小二年 澤 あやめ

はねつきはまけてもいいさそらをみる 矢田小二年 井上みのり

しめかざりぶらんぶらんとかせにのる 矢田小二年 有馬羽琉

しまいがちかくにきてびっくりした 矢田小二年 永田 彩香

おもちつききねがおもくてできないな 矢田小二年 澤 実伶

しまいにはじめてあたまかまれたよ 矢田小二年 鈴木はなえ

年賀状みんなにたくさん送ります 矢田小四年 萬浪 一輝

はねつきに勝ち弟の顔にすみ 矢田小四年 清水 政宗

羽根つきで書かれた顔は世界一 矢田小四年 牛木 耕平

ひらがなで言葉が完成かるたとり 矢田小四年 小島 悠暉

年賀状人の心がつながるよ 矢田小五年 柳原 涼我

もちつきでべたんと疲れた自分の手 矢田小六年 竹下 義忠

節料理最後に食べるごぼうまき 矢田小六年 松本 光聖

お年玉次もらう時は受験生 平坂中二年 野村 美咲



# 短歌

◆特選◆

雨上がりくつきりと顕つ山脈に年始の鼓動整えており

中原町 藤井美智子

祝儀の家の建仁寺垣艶つやと蹲踞の水光りあふるる

江原町 近藤 雅恵

目覚めたら予定の数多ある日々の健やかな古稀の新年となる

楠村町 小島日出世

倉庫には春の肥料を積み上げて老いし吾の心は逸る

野々宮町 川上 信子

高一の孫への賀状論語より「志学」一筆添へ書きをして

江原町 村松 覺

ヨボセヨと韓国よりの初電話吾娘の齢も五十路となりぬ

花蔵寺町 三浦 貞子

この年のいのち真幸くあれと飲む屠蘇の浸みきて年はじまりぬ

吉良町 小山 芳子

目交に初富士迫るロープウェイ正月二日を娘と旅にあり

戸ヶ崎二丁目 浅井 敦子

うち並ぶ漁船を飾る大漁旗色浮かび出ず初明りして

上羽角町 乙部 妙子

朝風のテトラポットに集ひ来る鴉はなべて初光を受く

鳥羽町 谷口壽々榮

瞑りて足湯につかる薔薇の苑八十路行く先思いめぐらす

米津町 沢戸美代子

青竹の蓋置清し初釜のぼんとひと打ち引柄杓置く

幸町 吉見 ひで

オリンピックまで七年生きぬくと夫はいいつつ賀状読みおり

一色町 粕谷 弘子

初鏡めでたきものよ銀髪も齡重ねて殖えたる皺も

熊味町 浅井シヅ子

天国はもう春ですか額縁の夫にたずねる今日は命日

深池町 柘植 美苗

コンロンの壺より出でし綿の実は咲き続けたり平成の世に

米津町 沢戸 守

復員の従兄は自ら敗戦と多く語らず逝きたる卒寿

上羽角町 金子あきゑ

つつましく鰐口鳴らす初詣天変地異のなきこと願ふ

鶴ヶ池町 富永 幸子



# 川柳

◆特選◆

抹茶の日ゆるキャラまーちは人気者

上羽角町 乙部 妙子

初売りに和装が交じるさかな市

住吉町 松川 勝弘

遷宮のほとぼり未だ伊勢参り

永吉町 石川とみ子

初点前茶盤の底に馬の文字

花蔵寺町 三浦 貞子

郷愁の手書き賀状の希少価値

永吉町 石川 英一

老ゆるとは自分自身の心掛け

桜町 太田 由美

お年玉そつと出す手はもみじの手

神下町 加藤 八重

一人住む松は小さき飾り餅

米津町 米津喜三子

老いてなお願いが多い初詣

矢曾根町 佐藤 哲也

特産の初日まぶしき柿の里

家武町 神取 和子

玉葱を植えて生き抜く春を待つ

鎌谷町 手島よし江

屠蘇交す髭の家長を真ん中に

下羽角町 濱嶋 君江

初夢や記憶に残るは宝舟

鶴ヶ池町 富永 幸子

夢に見し母われよりも元氣そう

江原町 榊原さちよ

増税に家計防衛つましくし

中畑町 塩谷 直子

あといくつ迎えられるかお正月

丁田町 川口 實

撞く人の思い伝わる鐘の音

山下町 井戸 貞代

肩寄せて顔寄せ合いて初写真

貝吹町 磯貝きみ子